慶応元拾遺大成

十

共十二

内閣文庫
番號 和 35558
冊數 12 (10)
函號 150 77

内閣文庫
和書
類 三三五五八
號 一二
冊
函 一五〇
架 一四

国立公文書館
National Archives of Japan

国258

慶元拾遺　大友卷之拾九

一　京大坂巡回の事　名所の事

一　大坂より京都に至る思ひの者石

一　摂津国　古田織部正と滅亡の事

一　大坂城中軍配の事

一　安部丹後京伊乃介を殺害の事　并

　　より於軍中を立事　付古国郷解攻の

　　評

一　安部丹後出羽の事

一　厚倉小十郎以下伯耆郡中討死首、

国立公文書館
National Archives of Japan

慶元拾遺大成巻之拾九

一大御所様より八月御出馬之儀ハ
将軍様より延引ニ成出馬ニ相成出
馬ニ成ル日ハ二日御出馬ニ相成出
ル筈ニ成ル方ニ而ハ強勢動員ニ成ル筈ニ付
二條勤番　松平陽成ヲ定番
同所玄番　松平河内守定行
伏見城ニ番　松平伊勢守義親
小笠原長保定番
一色左馬之頭義直

菅沼左馬亮信[illegible]　[illegible]

二条の城番を勤[illegible]

松平郡司松平[illegible]紀伊守実信[illegible]勤番[illegible]

泉列屋和田城番小出信濃守吉英

今度出[illegible]

同所加番　小出吉親

掛列尼崎城番　[illegible]信濃守助

同所加番　建部内匠頭長政

松平紀伊守[illegible]信

以前四度共[illegible]

掛列高槻城番

同多田底番

播州姫路城番

大和郡山城番　押[illegible]

城[illegible]淀城[illegible]番

同[illegible]番

石川[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冊波龜山左番

松列小田原城左番

清松手

牧方の押

松平和泉守家臣

平岩平左衛門定治

堂山勘左衛門方家

大浦一豊

三宅一豊

妻木彦兵衛頼忠

稲葉佐渡守正成

小笠原監物

伊奈一豊

那須左京亮資泰

長谷部左兵衛宣勝

松平周防守康重

西尾吉良殿左兵衛

向井将監忠勝

小浜民部少輔

一

大岡彦平治　政房

稲葉彦兵衛　資保

伊丹野又左衛門資友

永井大和守　直宣

京都より板倉伊勢守

曰何者と問しに他所

なりしと浦井治部と

名乗る者あり八

たりしを麻呂の事を功ある者と

叶福岳寺より浦井治部

男上ゆ住する所人民村毒虫と云事師

右同原伺所時浦

長和之間の浦家保

芦野茂左衛門資春

右同原出奔の時浦

二条より来り称人して四郎右衛門殿の辺より怪
敷者十余人隠れ居り中之内板倉新兵衛を
先立て力任せ踏込み人々を捕へ縛り指穴人
まで捕来る板倉氏も乱暴とて乱入
致人数多たる様に白状して云ふ事に成
其日出役与力時前所へ出役
大野弥三郎定め手余人にて
今日何の沙汰なし伝聞に高矢と今
十六人斗り此一味
捕手に向ひ働
縄を掛

一命を助命ぬ
下命の事
上に何ひ大方一命
如
ら
ケ程の大事
の用意せ
ハ内
よ
夫を掛

板倉
日代
人板倉
の何
金程
道家義
を定め
人同時
一あるの程を

殺し候ハ古田織部正より被仰付
候ハ何の故と申候ハ情実の故と
被仰候又問ハ何故初め条合せ申
十年以来の知己なりと云板倉大きに
怒り宗春を捕縛の儀ハ対馬より
被仰付候ハ何と申候ハ
見助ケ候ハ板倉双方とも極内意にて
ハ宗春上洛ハ大御所様大猶予情実
御尋ハ制禁ハ仙台ハ知ハ知ハ
通雅ハ宗春上ハ御家の一事奉角に及ぶ又
又三人切腹仕候ハ御家断不絶ハ
御家の人芸

切腹検使ハ屋敷あつまり御家老
ハ知ハ外丹興周山ハ云ハ
ハ雅ハ万能一人ハ高ハ
ハ事ハ

偖ハ四月二日清出馬出船ハ知
ハ江戸出代官鈴木ハ
ハの歌ハ新ハ戸田八郎ハ
浪人ハ日の晴ハ討果ハ
三井ハ延ハ丹間検死を
移遠ハ志ハ内検の所ハ大坂奥通
の密柳一郎ハ検死の旦又ハ

板倉伊賀守ハ淀城ヨリ二条ニ陣ヲ取
出陣致候ヘ共実ニハ板倉ハ其上ニ
居る故ニ曽古屋ハ京道森宗右
ヘ豊后守を始諸人ハ全人ヲ捕
れ見ヨリ出候の処大坂内通を文
吉田藩ハ大御所ハ京ニ居ル
の跡ヨリ京を攻取なり二条城
攻取京ニ居を焼拂ヘキ所ニ
此節ハ二ツ法出馬ニ及ヒ
御ア ハ切腹宗義を初ル人の金壹
日の間ニ焼拂ヘ

一

大坂城中ハ淀殿道明寺表ヘ向ケ
物見出張ス 日ニ 日ニ 都
ヨリ 京白山の出張御出張ヘ
白山出一隊あり今一日出るあり
表ニ京白出一隊ヲ上ヲ
出 作ハ八幡ニ出張ヘ合戦利を得ヘキ
ヲ左右ヲ見ル ヲ上ハ
を始一度の深人 吾ハ
秀頼ヲ出のヲ
ヲ人交ヲ生
一ツ軍功ヲ立ヘキ人

吉田宮内の門と書加へ申候ハ
佐田秀形ニ陳傷人の火薬遠
口を出て八ツ目丈ケ打て手負
茶臼山長山辛聖口西道口長門に
入申候
長ハ伝て大坂を分て打て大和（手負大和打て長門の解死）
長門口西道口に押へて
薄田隼人正を大将として組の指揮を
毛利上ハ長門小川治部を大将
けさを大将小笠原
合て郡万石四余人家も
大勢加て邪魔と形成
二番長江表木村長門守加合三千人
三番久宝寺表毛利豊前守脇坂合三千人
四番道明寺表後藤又兵衛新合三千人
五番平野表吉田左兵衛佐合三千人
六番天王寺表茶臼山に吉田ノ嬬子大助
佐を日大助事ハ生年十六歳と
人賞て二度よりるいて
此度注先ニて出られ疲て
秀形ニ鳥帽子新しく
の大小をのふ長ハ文字
長ハ御疲ハ籠加へ

七番目山表に大将を置き大将を大
将義知 右衛門
八番茅白山の彼方より代々番より七組の人
九番河内国柏村 右衛門 藤孝
より信貴山口を固る助内義弟千寿 郎子人
あるべき命ふ 敵合大坂を法軍勢 六万七千
余人

一 月日 右の仕様を将軍家を主従二條出仕御
くて万端に作合を三の宣 将軍家
を義又 大御所藤孝を信長二条出出芸
御年 ゆるいとも出承引 おく月日の

出を義と御言ふ二りは又秋元但馬
出候ゆゑ出国源を節又秋元出殿家
殿ゆゆは生孤面月日の事不如独日
ゆゆとも出石ゆゆ号 右御所ゆゆ
月の御を義 将軍家は殿方出休息
殿出源ゆゆ
源曰 右御所藤の言はいゆゆ言て
曰昔呉国ゆゆ比攻攻ゆゆ
寄来る月日ゆゆ神風吹て呉国
の舟弘強ゆゆ吹破ゆゆ例ゆ
月日ゆゆ和国の民家悪く

籠城を為る風俗と為る今年も
町人百姓も籠城罪のかろきよりは
只勢味方の戰場へ出でゝ籠城を
為るより仕方なく欲を吳るの物と
して大坂を攻古る間ゝ吳るを
討のそのむくゆをれし所へ人ゝ
為ぶりゝ云て主將の軍ハ
商人等を百姓人商人出ゝ
秀頼軍記に曰此次第侵出ゝ軍の
法邪經知たる猶の部人家業いつるの
あり江列の位人位名ハ言葉に仕為ゝ

ゝ品を秀頼ハ百及セめハ潛よ出ゝ
百和若年の秋より又よおくれてゝ
年月を仕ゝ仕三年ハ
業ぶ言の名御を
文ぶ月より心を
心を動し武士の家より生まゝ言葉を
学ぶ御て合戦ゝ為ゝ事ハ
月より為事なし作
冥ゝ上りゝ抵今和大仏供養を遂
の事ハかなし北軍部ゝ市代近入
の節ゝ三ケ条を仕ゝ為ゝ

何れも殺戮する所なれハ不浄此嫌を養ハ不
と定め給ふの理ハ是を以て其如
の如く軍兵地集り武功を励し日本を
鎮め給ふ一如も味方の利を失ハ兵
加部力あ其法軍勢の雪功ハり
ハ其の報ひ仮らるく
制へ和睦の後新系の者共へ投降を放
よりん中を名ゝ伝ふ和睦の
元分始むるあ其新系の法流人別家
ふるあ其中弱東ふく和平したと
いへとも彼法流人ハ完行ふへきを程

形ハ其ゝ生ふ殺ハ其ゝ生ふ
戒行ふ其を去ぬるハ拿鄙り
如ハ加ん法ふ如又合戦を法
如屍を野山ハ晒ハ法軍勢の思ハ
報ん其ふ也海ふ如の合戦の
方便あハ弱ハ其ふのハ
宗義也捉を義り源ハ むさく
拙をを中さ法ふ法ふ拙日本の実
源を動へ又ふ神代の事ハ思ふ
及ハ其祢冥土大地合戦の吉凶を考
ふ弱頁ハ大地の吉凶ハ高ふ

此ともに御父太閤高麗を攻め給ふの報ひ
今責来りし成忠分らず一刀一此合戦也利運
なくして又朝鮮也とや公害し豊臣
主君を軽んじれども今はれいに仁義の道を背き
厚く引立君臣父子和して合戦なさば何の罪
いふ事有るべく 知りながら継るに呉越よ何の罪
有りて朝鮮をば攻めふせ 天子分廣人あまる
まして又祖代々の廟を破壊せられ刀杖を
蒙むる者人は東西を無くし女童子を
合戦くとも一しもころたりの様にて茶木を
なくりてく 西臣見殿子弟ともや首殺ぬ

とりまく耳鼻を切りて日本へ渡し東山
のふもとに耳塚を築くは此むくひ何れ
の世よりさんかやさん続きなハ此合戦
勝利ハあきらめり大仏殿の鐘の銘
より起り事は耳塚見るにぬりて見
を婦く道理の其の所也を定
高を見て起孫也和睦の御法に経由し
の此孫を中せしと祈り此浄論関東へ
中石南光坊のいとく此故也味方の
也持船朝鮮より秀頼を攻るの桐を残
ハしきも此利運必定とや 西位て庵

人足の御出しの御やうくしとらし
又秀頼公江戸口京ふて大坂と和睦の
事又破れて大坂より京都へ多勢を
登せられ御所御一宇も残りなく焼き
払ふ由を承りけれハ京中騒き乱れ
てあたこ山ゑい山より鞍馬山まて立騒
上下財宝をかくし京中の騒動雑説
又禁裏仙洞御庭殿にめくしも資財雑
具を運ひ入京中の軍兵ハ物のゆへ皆
人々家をうけ籠りて避け兵乱理不
生の御恵なれハ兼〃り下極の節ゑ

さるうき騒きの御騒もなく禁中を始めふ
こなた上数万人今度は御行列まゝら禁裏仙洞
より御菓子今日まて放し賜ハよう京中
の男女今度を悦ひなく喜ひ祝し
大御所様分相平に成る和を許さる女人に
命しらるまて禁裏にても騒動を休めさせ
あひしとなり

将軍家道中御行列の事

将軍家六日御数万ニ御供にて御出陣にて
前尾ニ伝八尾久宝寺辺へ備へるへき如くに
御着陣あるへきとなり　大御所様にも

砂場出休申候の内を南部へ入注出定め
のごとく相軍家久家寺近所を敷
大沢西根へハ牧方より出ると知よ神蔵 指沢より
不屈ものく依て御和列へ出張おゝ
信田今宵 牧方の指沢 生田の出事体と
来り和列へ出張を義へ人沢を張を
云上事 大沢西根大より出張嶽あり
之道筋ハ高出御和村より信田へ
を場をいたし通り来るとやうく
指条の如き急き信田へ上の作まく
出陣所を出るく退り指沢へ中沢へ

不及ものく上り場より見られ尾尾
悪く今の世近も 彼社陣 信田 梅
取ものく指沢の羅ハ高あるとや
大坂勢 此時来御村より出事見保
相軍家の出を敷を為るとを信方の
測のごとく体勢をもく此中沢
よまよ出上事を御村又ハ出事体ハ
星田へ来る由中分出智あり指沢
事出陣よさ出来るる大より軍中
ものく忘む事なり又出岩体のごとく
ケ根の欲通西ハ海注当のごとく

青柳沢右衛門法のり

七日松軍勢平野より長尾　大御所西福寺警
を待ゐ俱に平野松原より出合合
出お渡ゝ岩山ゝ茶臼山ゝより入給ふ
大坂七日の日丹より大坂表出陣
評回　大御所西福寺警
ゝ
まハ軍より如術を沿ゐ友なれた
事共坊考友ゝ云し

一一番　廿日の御旗七本立ち三枝七作る鶴田
沼云清二郎ゝ列ス御旗持七人共一様の出立

何も侍分の者ゝ沼ゝ指ゝ人数ゝ持ゝ
二番　金の七本骨の扇子日の丸の絵
たる出馬武者の纏ま月のまゝ金の切
き付たる小馬武者二ツ鶴草の如ゝ組の
のふまん付ゝ法馬武者日ゝ加ゝやき海
さゝやゝゝ猪たる武者数万騎ゝゝつゝ
を仕せ先駆ゝたり
三番　大将軍ハ黒糸の御鎧ゝ石鶏の毛
を以ゝ織付たる御体胴織ゝ唐人笠ゝ
たゝ白芦毛の馬のたくゝ海きゝ金具
の鞍を置紫の厚蒲ゝ虎の皮のあり

象服の紋白鹿の裏 無皮の鹿鞘掛さる
出立日を佩せられたる白の清水鎧大小毛
を出掛る孫より吳服の清水出立所に
たるゆえ右内義之義ゆえ候ス
白番清水の大名今部不条之家臣
面々名代として上ゝ如の軍勢之方作人共
くの弱束之鎧ゝ孫ゝの鎧ゝ
白書清服りとして古井柳原見ハ去年前備
たるより信ゝ今年後備なり
大清所掛清水列
之書 黒白の清鎧 孫軍勢より

七流色出鎧 古沢田小左ゝ 弟金左千郎
部書金の扇の出馬 弟部の如ゝ たん二年
切さき 弟たる小馬 下鳥筋より厨鎧 稼ち
仮求淳ちゝ ちたる出右例の鎧清馬の
服より前擔をるなり 他黒清 級分の弟
より入る
三書清使書流 白書 金 伍ノ文字ちたる
指掛形り
白番清小性流 白ゝ紋
前之物より組の切さきを分 ゝの鎧
白書清賀前後左右ゝ黒具 黒歩の形

之の所へ
六番御殿より如意佐源太殿下おゆより五千
余人なり
初て七日出船四ツ時西の浜へ
出宿仮屋を立野陣を取
及夕暮より出て敵の風聞をあけ
不審を篠崎と佐々木義清
となり
又一書に曰将軍敵陣の城を攻
しのふ時大手大炊助利綱左軍の
総指揮佐久間備前守安政おのく

大将三世勝之助紫原長
義力左近丞丈正房海口左兵衛尉
中宮信濃守定繁城法師丸中
御士越しく芝方泊井弾正忠亜
右軍の総将しく細川兵部大輔氏
小條出羽守武蔵守信義次
板垣伯耆守長谷信濃次
右方掃部助兵部元春
しく芝方松平伊与守如意丸太郎兵衛
松平伊与守長昌三郎左近将監敦
同三郎正西如意丸陽守次郎四

大和守利幸日根野織部正吉明秋元
釋丹波守冨朝菅沼左馬尉貞政次
の云由利の云津今武川の云恵〻
吉方面々備前守正次内藤大和守松平釋丹波
守忍藩左軍たりける水戸藩正次
吉山伯耆守本多伯耆守集人正方清次
軍たり軍士総て三万余藩次
左軍総幕下の云武方余
大御所様の御旗本の尾張藩吉方面々藩の近隣を
固め菅沼寧右弟忠次

集人正作獨山城守を先手として
吉方面々吉沼寧右形宣仁親王安房
守口を堅守る者先陣として
吉方使よ
大御所の翼藩多く
先鋒の諸侯おの〻吉方よ丹波
播磨肥前丹後二国榊原式部大輔
次に小笠原右近将監秀政同信濃守
右衛門大夫忠政保科肥後守正之
他の云総大将秀忠政信濃守
同右衛門大夫忠政同信濃守
秀忠左三位中将忠長
松平伊豆守信綱

為吾作勢ヲ得隆お馬大将ニ成家亂
六ヶ敷所政宗稲垣平右ヱ門を往
右辺ヲ固メ家康ハ酒井左衛門尉家康平
甲斐ヲ右ニ松平安房ヲ信吉牧野
駿河ヲ右ニ如松平勝重如之番
如矢ヲ出ヲ右ニ田伊豆ヲ信ヲ信ヲ
秋田堀ヲ勝実雪斎秋田ヲ乗如忠也
松平忠ヲ信ヲ次松平忠ヲ信ヲ
六番城ヲ如かれ右也ヲ番ヲ
七番松平能ヲ利ヲ三万余海
皆河内ヲ攻ヲ大坂ヲ組ク

大御所秀忠ヲ組ハ大坂軍士
お集ヲ組ヲ其ヲ日ヲ方ヲ攻ヲ秋軍ハ
西ヨリ国ヲ攻メハ敵ヲ死敵して士卒
多ク亡ヲ如なん乃天満口の国ヲ
爾ヲ生道ヲ開き脱去ヲ
ヲ攻メヨ右ヲ天満口ヲ国ハ攻メ
天満口ヲ国ハ攻メ西ヨ去ヲ出ル

一六月六ヶ大和口の合戦秋軍ハ
主家の事大和口ハ越前ヲ野日ヲ信如作
ヲ影ヲ攻作金小十郎木力戦後又ヲ
藤田年人西討死の事法ヨ形勢たり

仮ニ略ス

後藤又兵衛ハ近所の田より取つすき
牛角を合ふあてがたるを見て捉
所山の上より数家の手を越
合源を負て叫ぶ声と共に金馬
年貢を出せ田の年貢を
ちんと長上りとなる

長田隼人正殿様村彩八兵衛
討死を知り堀田弥三郎
武蔵より改宗家来百姓数多討死
石川大和守殿光
高五百

仲達安房守殿実高五百
成庭因幡守殿五百
奥山出羽守殿兼清高五百
仲友紀伊守殿氏組足軽
馬沢七郎左衛門道組足軽
宗岡出定宣組足軽
堀田作右衛門彩組足軽
大山助左衛門組足軽
佐々美狭守元綱組足軽
弓場善八郎盛組足軽
宗田甲斐宗次内者

百七ツ
百二ツ
百四ツ
百三ツ
百三ツ
百一ツ
百一ツ
百一ツ
百二ツ内中者ツ
百二ツ
百二ツ

大町与平太郎門人者　首二
上田久八佐藤左馬之助毛尾与左衛門平野嘉藤
治左馬之助矢部久作加賀田清次郎川口
源太郎大内兵部之丞神谷兵部之丞
小田小吉蓮井与次郎常沢指内各首
取る
討取候金子の者都合首数弐万程討取
討取候中に首一百余政宗家来新妻
左京作松平治次右衛門を始討死数密
左之通金子十郎兵衛右之首数九千一討取
小十郎兵衛右之首数弐千一人も
無之者
拙者ニ同伴遠政宗家来長谷大膳
右之強鉄砲を撃さるるを加藤左馬之助
見届大膳三百挺鉄砲を打掛いらぬ事
と紀州殿より加藤を通申大を持ハ
大縄入之意趣にて某を捕ハ
通めくこと拙者ハ云て大縄
某共より荷ハ包小荷拙者ハ踏ら事を
仕ると此時ハ政宗大ハ怒りて
職分を失ふ者可の知恵を破りたり士の
人せしめと明自ら切て拙者ハ

是程若し命じて一同に刀を抜き木を
伐採する者を人殺しの刀を抜く木を
切りたるあらば是を死罪に処し八是程
然ひとり人を雇ひ勤さしむる者とも
同罪に処し級しく法を厳に
なすべき事を戒むべし

寛文拾遠大和老之十九

寛文拾遠大和老之二十

一 高田左馬佐軍法を犯すに付お預かり
一 美濃矢尾合戦の時逃亡臺部
部屋討死仕名法名書付事
一 部屋討死之事
一 井伊部屋京助左馬の伯父部中
討死之事
一 内藤彩十郎政勝の伯
一 山口左馬之助正定之事
一 本村半四郎貢実検の時之事

一 山口浮屠寺討死ならびに
一 七月廿九日攻落の事
一 同日協方備之の事 義弘大学の事

慶長拾遠大和卷之二十

一 六月朔日より伏見田丸の御屋敷の御番
筑前三郎右衛門人数郡之方斗も西府城へ
入り城方へ城へ籠り居候間備等
形り士卒出ヶ や只今迄備捨るゝと言ふ
氣色に成れとも高田隼人正殿
て斥膳を立て居たりしを論ず言て
尤あんと斗ありて和ず伝言ふと形し
日本衆江又拘足逗留すの籠と
之碁り山口二三十人数郡方斗も松倉

定りよりて名主組頭を押かけ
出る是松平上総殿領分
居たるり国を見しいるるを聴さるよ
一所よあつめ打殺んハ大よ恐よりんと云
是よる会ぬ殺されハ皆てやりたる
京稲輪まりぬ是大数を忍ぬ者
味方を勧ませしとのてもりて多数集て
後代所ハ殺ふよ使よりいさ数近く寄
らんとて是方ある余を西寄を乱長
部屋を派さ沢源士寄卒沢重を警て
推知て殺候数十倍ものとも忍てよ

是て是て品りて出る手度乃時寄よ後
て法令度殺ハ敢て侵掠て人
加て是時ハ六ハ山の正旦郷村迄よ
源迄用郎加乱ハ者村よ先迄て多殺
日向国殺加て殺ふ乱殺加て加廉て
五六掠寄殺加ハ是返して乱を打返て
手よ力殺三郎よ及んて乱除て負
りハ人方を殺よ打て倫を三西し
幸村よ使をきハ是人の点人よ割を
殺り又殺ふて是殺して殺て殺是度近
川の坊殺んて殺よ打て旦横を対ん

[illegible]の一筋たるべきやうに八幡村田地御[illegible]
国を[illegible]るやうに仰せ[illegible]
[illegible]事にて軍をされハ政宗の[illegible]
[illegible]村の地形ハ前後ハ[illegible]
の上手なり中間十町斗畢くにて[illegible]
[illegible]田地を連り[illegible]村の先[illegible]
押上たる所を政宗の[illegible]
一同に打立たり[illegible]馬[illegible]
[illegible]の二男三男壮力の者[illegible]
[illegible]ハる所[illegible]

[illegible]めの[illegible]の[illegible]
馬上より[illegible]定め[illegible]
中[illegible]ハ[illegible]
[illegible]知[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]大坂[illegible]中の[illegible]
[illegible]合[illegible]
[illegible]政宗の[illegible]

一 若江[illegible]村長[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]尾[illegible]
[illegible]内[illegible]

新十郎年礼仕久月波多野右を始め
去冬今福郷功之者付従味方八井浦
及手柳系を始め之軍
夏陣中一之手柳に御軍
仕也八氏重之累し村を始内藤
弓下付死味方八山口伊豆守を始義重
敵を殺者付死のるも法云よ那
を伴流をのゝ云那八しい
東方ものの内知矢出守を始
丹波石川伊豆守を始
但るる也羅知那を始
次家を出る安国一条縄手まで
押出し面をそれハ大坂方一万斗
乃味方の方に向人数を繰出
見出村毛利を始知矢出守
備陣に作き陣を西に立出
彼敵に無中されハ今日の
軍功に而よくたゝ富こゝ
ゝ名ゝかくの指物し出
投使知矢陣を出
代の是列おを柄立八分備その
子細八知ゝよ柄を技者

此先に云へる如く陸羽の
警固を作り守り家人に役負を
課せんと無き事は如何なる事
なりしかは其は加賀守さん
と義を西向に押出せは強盗所は
是後の京寒に只々無き利を
求へ一時紛き事にて多分は
小勢にて無き故に如何義
の所領を如何なりしと敵寄
来る事は金銭なきるのは
乃時に無き故きけ方なく横を

死仕候に鬼の上の加辱なハて下
あるく仕来なる抜列をのあるハ敵
に男を山中さんとお止めやせしハ
至敵よ向ハ仕なる形
又義平ハ先鋒源平動富多度の
前後悔中門迄を立に如此家臣列
前へ始て出るを万て戦列を
形くやうなる古来の事ハ家なる
不和形仕ハ下の印情に一通の
事なる金銭なる不足を屋敷
死を立なる和後一番に後人を

天下の浪人所々に集り京師大坂
を始め大津伏見堺等に於て
騒動の事
慶長年代に成る所に成る虎長氏の
内に成る者共苗字偉の一字
を用ひ来る所に成り
同勘ゑ由ハ主殺害を以て八方に
散りえの勢を励まし敵対
慶親ゑ以下ハ三河ゑ
付き大坂方の浪人を多
和泉ゑ以下ハ由秀頼働

故に河の骨を洗ふ子孫より伝へ
慶親下知ゑ
又業名所を浪人に
紀氏の名を偉字を
偉字を弱ハ
浪人に付慶長
紀ゑ古を慶
四位を
古の
伝ふ

河の骨を洗ふ子孫より伝へ
慶親下知ゑ
名所を浪人に
紀氏ハ先祖より
紀氏ハ
偉字を弱ハ
浪人に付慶長
紀ゑ古を抱られ
四位を
古の
伝ふ

の名を
紀氏ハ
の金銭
紀関ヶ原の
紀大坂籠城の列
紀氏をも
紀
紀

[illegible]
討死之志を遂げ[illegible]
[illegible]
[illegible]
九百隆級郡人討死 [illegible]
[illegible]
書よみ[illegible]墳墓法名俗名

[illegible] 林 宗 [illegible] 仁左衛
要 津宗 玄 同 玄 蕃
翠 篇宗 [illegible] [illegible] 彦十郎
自[illegible] 宗 由 同 勘ケ 由

[illegible] 宗 岡 山[illegible]
仰 之 宗 [illegible] 桑名[illegible]

右之郎 討死仕侍[illegible]
[illegible]田[illegible] 源田[illegible]仕[illegible] 高田[illegible]助
津田[illegible]馬 竹[illegible]郡[illegible] [illegible]山[illegible]内
沢 集 人 田[illegible]内[illegible] 梅[illegible]万助
梅[illegible]亀[illegible]助 [illegible]津[illegible]内 [illegible]彦助
西川[illegible]溜 [illegible]尾[illegible] 桑名源[illegible]
七[illegible]十郎 安[illegible] [illegible]和[illegible]
三田村[illegible] 西[illegible]内[illegible] [illegible]田[illegible]
柳田[illegible]郎 [illegible]義[illegible] [illegible]西[illegible]

瀧本三郎左衛門　赤尾弥三兵衛　内藤伝左衛門
吉山四郎兵衛　足田勘左衛門　伊口平左衛門
山田八太郎　佐藤吉兵衛　瀧本勘助
矢守孫助　松尾惣兵衛　平尾勘七
岸田喜左衛門　菊池角左衛門　矢倉三左衛門
竹井弥右衛門　粟屋治左衛門　安波伝右衛門
井村彦左衛門　足田勘左衛門　大須賀七兵衛
岡本権兵衛　稲葉伊助　三塚次兵衛
林田小太郎　三塚権左衛門　中西九左衛門
高山弥兵衛　小嶋伝助　濱市太兵衛
多田喜平次　堀七太郎　山岸喜三郎

辻又左衛門　高畑主税　渡辺勘兵衛
渡辺忠左衛門　山本伝左衛門　松田源友助
野嶋源兵衛　松井喜右　合七拾三人
右合戦ニ井伊掃部頭殿[?]石備前
二千石
川手主水 三千石 討死ス 庵原助右衛門
八十文字の鑓ニて木村長門守と鑓を合掛
長門田の井ニ横ニ倒る庵原々備部人下り
庵原長門を組しきニ首を取る処ニ安藤
長三郎来て戦せよ手ニ合されハ首
取り候て乞ひ取り助太郎実ハ名持行る
是ゟの外庵原実ハ知れされとも木村長門

と名字をうしなひ今時分中大坂城
たりしを方々の人数の首を八月朔日
陣ヲ取れ引つゝ堀を包こゝ出
よ与へ保科弾正殿ハ堀の出し口
の指作を手伝ふ由聞て助左衛門
を祝儀ニ行いとゝ出ハ家四郎
殿ヲ門迫しの組ハ堀ハ危く人
数ヲ引迫しの組ハ助左衛門
たる組へ助左衛門ハ家内ハ
を作ぬよ仕れと都を掛れのこゝ
元を助左衛殿ハ力を仕強
を稼ぐ利通し敷弱ヲ知を家人掛

合敷を引仰れハ豆腐部上り首を九り
横地修理初部修理ハ伊藤長を
感して豆腐を八大坂ハ
豆腐名中ハ長ハ長年の子部ハ組ハ
たるを親ヲ助左衛門ハ
ちやうの尊し時助左衛
子ハ不使ぬる指ヲ斗ハ
唐原助左衛門ハ元後河内
原左衛門ハ筋ヲ助左衛門ハ
左衛門ハ助左衛門武者修行
しを要列ハ海を紀左衛

いひ一同申のものと同じく御所
きこをおく一度より蒲生氏郷仕
あ人ともよりあり功あり蒲生氏郷
家臣なりたる為人にて高名無
なよ強き後あ人ともよりみ浦御所
一旦仕き

又門左衛門ハ去年なよ大侯大家ま
おくを人掃部殿所
此度討死と聞
又左衛門ハ蒲生氏郷家臣
竹内より出ハきの出る而ハ仕家と世代

たり又志摩守ハ去年の河志れ
しくを忘へきく三年たり三郎殿
面在去年より三郎殿を
三郎殿の家臣より某
一形り此度討死
一時七左衛門殿入討死
此戦より内蔵佐十郎
家内の屋の子
百姓なの人の大名より作
偏より家を惜

一道家まく遣り出ハ
云しく六何
三郎殿家臣
を形ま
ハ某ハ
きを
後掛
入
形り
ハ政信も討死
ハ
を取
秀吉
者
編

日下部源左衛門殺されたる為め人々戦
討死をなしおされの輩より及たりしの九箇
と走り来りて おされのよし申上げ候
形り為聞きて御取扱ひ被仰付
る事 掃部殿怒り切腹申付られ
内蔵助信十郎は先祖武田義安
改名は秀吉公の時召列被
召大内義弘 其時も秀吉に従者
有 為に従属し戦功を以 時姓名
を改め 梶原景時と称し 義弘
領地を 信の時出生の子孫
秀吉は祖父政弘は好みのよしにて
召寄せられ 十九年九月 洛陽し
給ふ 秀吉 又帝
政貞は若列 召れの後 人
京都に出仕し 内蔵と改称
子孫 信十郎 政宿 母は
氏秀 形公の出羽守 入興の
時附従し 其後 信
信十郎 秀 形公 召出され 大坂
城の時 内蔵は出羽守

たゝれ隠居せられ候ハ
ゝ石高を
内蔵助殿
信十郎殿
政勝ゝ殿
家内か補
還俗仕候
号仕候
一後ハ彩十郎
主殿孫十郎
実ハ美列

内蔵助殿
家内
東福寺の
大樹
自内蔵助殿
武田の
仕候

一山口左馬之助西定赤堀掃部
所を八田金十郎
家為ニ下賜ル

左馬之助ハ加列大聖寺の
当蔵西純ゝ次男ゝ
時政ニ
鍋塚ゝ山口ゝ
美白く尊
ゝ前の小男
鍋別ニく

元信ゝ三男形ゝ
西定赤堀掃部ゝ下知ゝ
走ゝ掃
三百ゝ

山口ゝ
ハ加賀
ゝ関ゝ京の
後浪人ニて
ハ前妻ゝ
ハ松平高
ゝ女房ゝ
他人ゝ

武蔵国[illegible]郡中[illegible]より中村
[illegible]星田まで寺より預ける[illegible]
源義[illegible]ける丁寧[illegible]仕る[illegible]
生捕[illegible]人ハ[illegible]ハ[illegible]三人ハ
上野[illegible]ハ[illegible]浅
永井源[illegible]中[illegible]
又[illegible]村長[illegible]ハ[illegible]薫[illegible]
大[illegible]ハ[illegible]の[illegible]感[illegible]時[illegible]
迫[illegible]中村討死ハ[illegible]
役[illegible]ハ月代[illegible]
大[illegible]ハ[illegible]の志月代[illegible]

[illegible]甲[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一
山口[illegible]討死ハ山口[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ため強く意大坂へ行んとせし如利留
守居衆上より及大坂に籠城事止め可
申との仰より前田大炊助伝達
連帰り御籠城の事に付いかゝ
長陸より又子丹作掃部先手より加
勢用方の為江者より作左衛門一番首
を取討死を御家中討死手負
修理亮事小平次に出張仕り雑人
ゝ先陸より長谷天王寺表へ討死籠城
仕候後修理亮事羽柴筑前守
陸免四郎左衛門事後出動致

一同七日の未明より　大御所西極より大坂
命じ長谷を大坂より攻めし免鶴
御出馬遊ばされ西迄より出茶臼山より
御陣取多勇猛者を改松平下総守忠
出西より備前松平備前守利元三方
猛東迄より出岡山より加賀宰相
備紀加賀侍従忠利
同東迄より陸奥加賀中納言秀政
御野出馬遊ばされ小笠原秀政
天王寺へ御出馬遊ばされ松平
松平薩摩守忠恒三番
立遊ばされ永井

右近衛大将惟盛卿宣旨を奉り平家追討の
事を諸国に令す次
大神宮の御極の廉を下され板倉内侍
を以て政所に渡し被下宣旨
左右なく候ふ仍て如件
大神宮の御極の廉を下され甲斐の国の住人佐渡守
信濃守源行綱
信濃守源行綱百騎を率して摂津国に
雲集す
今月十三日
大神宮の御極の廉を以て押領せ
ん為なり
惟盛卿
右近衛大将惟盛卿宣旨を奉り平家追討の事
令す次
大神宮の御極の廉を以て
将軍家の御先祖
源頼朝
以来
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱
源行綱

池乃せ宮より毛利出雲守殿永
組の浜地形松島之様成三里
四方七り定て歌書へきの通歌分
の方を見廻りて女人より打連
赤肌あらく刀さし若衆まもせ
髪の新月あらく夜の月より天王寺
書を通て夜四時より初て此
并伊武八湯あり切迫湯あり皆引
要弱を分て三里たり是ハ
大師所極の位あり尚塩の景色
を味方より知らしめんる為并に

高麗手より立たる形り有人是を
て仕たるすゝきてるゝ形り
合夜も四時なるまて是源氏
平盛島山筋東南四方里ゝ百
者より見到さる家村より左家数
も見へ源る処事あり形とやと
絵に見れハ歌の侍へよく森林
と見へたるゝ岩根也柄あり
日の出より陸ひ夜高より弱りさ
山東東ハ矢尾見江南ハ平地
遠近掛り三里ゝ百歌一向より要国

仙台藩士の人を殺害し
等く殺るきと文政しく
是如し備を作る奥田の先祖
大学大学子波戸田義助信本七
右衛門義田久助同弟女福島武義
同伊与右田言蔵石川紀長
津田左京結城格之助二の子ハ
義田の羅知菜岡山より備へ
る玉寺の名居是あハ紀
石見格治言蔵改義郷右衛
知の左近是門主る福島平六

西川猪波右書是与五郎
主猪量院の前ハ那主馬野村
伊与右七組主郎書会勢備へ
玉主寺の南門筋を利書右
右備ハ海弁国防右田是治門
の池の南大野修理支その組
一隊兵後衣木村藤田の吹り付
死の書の組勢の出たり修理の
後口ハ堀田是右衛うんの馬
市海川右近承之是山石押出ス
野部の堀主ハ夜中南書押出

彦根より人馬を如よ京所に寄手
の大軍数千隊に押来る敵家
秀頼ゟ内ゟ出下知よ数万寄手
を誘ひて天王寺へ引付り相戦
仕候ものゝ翌日よ寄手の
徳軍引分ると及ハ夜半野へ押
来れハ堀井安ハ遠藤大膳
亮鳥ヶ淵の布陣信濃を
兼たり高ゟ如よ茶臼山ゟ出宿
敵前ゟ来ると大勢九知押之大阪ゟ
押寄ると先の塙ハ東ゟ西の
方屋の上よ彼を使番を呼寄
東へ命ハ先を右深敵新宮
左ゟ彼ひ成ゟ左ゟよしゟ安先
ゟ出る彼理兎ヶ先の曲輪鉄
の左へ兼ひ立るヶ籠知の先隊を出
陣地を前よ南へ相来三十騎一隊
ゟ先ハ長岡源度布陣信濃長
大学新宮左ゟ成井淡路守隊
ゟ御使ハ二宮五寄
出宿敵前ゟ次ゟ籠知ゟ長ハ軍

家奇なる人を形り始めなる組織き
三條と三箇しく決八機能なる場合
と呼ぶ大学は法方無資討死を味方の
大利を失ひ大学の自分方の
の働きなる場を退くる者
監物出宿 組前三条又八安松
行を家臣つ強敵一男三郎
無に出る退き別一加る能力の
を組よ家臣中用と体ある
加なれども決人持の物足を退敵
ならず宜しく出利害のこのよ

ならんと言ふ故より皆不異に手間よ
出る家と三条と二組八たるより於て八
家と出組離逃ゆと三足退八家臣の
跡組も三足退ならず強る物所を見られ
主馬と不和なる者よ取組中に
下知を見る者より信ぶく名誉き三たり
決定布施ら家人某石衛の大軍
を指て為る家臣家を墓所と
極め別家なるよあるを三箇く皆
見信の前の事を殊よおるハ
將軍家なれハ武士の本望なること

加藤和泉守切腹被仰付候ニ付
其主振り又事ハ有之ニ而軍
法ニ慶長元年ニ出家ス
法名ハ創出ス
号大学ハ元来大隊大学ト云ヘ
加賀ニ有之ハ住ス
有之ハ明ノ河村指モハ母方ノ
叔父ニ有リ大坂ノ後男ヲ止入ル
恨ヲ含ミ号ス居ス
世ノ人大坂表ノ事奇ヲ
居ル事ノ有男ノ

前尾ニ付入道ス仍合戦ノ
相ル者ク有ル返ス
云ヘ

慶長拾遠大坂卷之壱終

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan